

文久三年

文久二(二三) 癸亥

(二月)

正月朔日

朝七ツ時より起て、雑煮祝ふて、内へ帰り候。典膳、木津え帰る。此日、私、内に居り候て、豊島さまにて奥四畳半にて、お雪さま手前にて薄茶呼れ、暫遊ふ。此日、唐津山田え行、遊ぶ。又、田(空白)米蔵さまえ行、遊ぶ。帰り、夕、辻さまえ帰り、一更二臥。

(二月) 二日

朝八ツ時より雑煮祝ふ。夜明る迄遊ぶ。夫より身こしらへして内へ帰り、豊島さまにて薄茶呼れ候。此日四ツ後時、父さま木津より帰られ候。昼飯、辻さまにて致し、私事、井上さまえ御礼二行、九畳にて薄茶戴。金三郎さま手前、床大こうさまの御文、竹台子。此時、高橋熊彦参られ候て、暫咄し有、帰られ候。私事も帰り、梶木町え行、早々帰る。内え帰り、日暮に相成候へとも、父さま御帰りなく、一更前に父さま木津より帰られ候。夫より辻さまえ行。父さま、尚五郎さまより一寸咄し有ゆへ呼に來候て、行れ候。又父さまも辻さまえ行れ、一宿する。

*こしらへ(拵へ) *床大こうさま(床太閤さま)

(二月) 三日

朝明六ツ時、雑煮祝ふて、父さま同道にて中之島え帰り、此日昼、井上さま御節にて参り候処、少々刻限早くゆへ、細矢え御礼に参り、広間にて薄茶呼れる。床了斎横五行之図、花入竹二重切紅白椿、白梅、柳、シヤウヲウ棚、後室手前済て、私一手前する。此時、加治重店の人來、暫咄し有て、帰られ候。夫より井上さまえ帰り、御膳呼れ、此時、蝶夢、菊岡、其外別家家内、三絃、十三絃、コキウ、三曲にてやかましき事也。夕方より山西、高島、其外、店大さハキ也。画席も有。私、一更二帰り候。三更後に、初相庭、始て見る。見事之事也。夫より臥。此日、父さま七ツ時より木津え帰られ候。

*シヤウヲウ棚(紹鷗棚) *コキウ(胡弓) *大さハキ(大騒ぎ) *初相庭(初霜庭)

(二月) 四日

此朝、鏡林にて、又雑煮祝ふて帰り、豊島さまにて薄茶呼れ候。昼飯、辻さまえ帰り。八

ツ後時より木津え帰り、一宿する。

*鏡林(鏡生)

(二月) 五日

此日、松はやしにて終日大さハキ也。此夜、又一宿する。

*松はやし(松囃子) *大さハキ(大騒ぎ)

(二月) 六日 カ

朝、木津より三之助と同道にて帰り、ニワカに上京催候て、こしらへ物する。此日、井上氏より呼に來、昼飯後行。暫して帰り、此日、豊島氏初釜にて、父さま夕方呼れ候。此時、船宿より呼に來、大いそかしくして、父さま辻さまえおいとま乞に行れ、私、三之助、乗船、其内父さまも船乗致され、夕暮、浮船、月夜清光にて一入おもしろき事也。船中に薄茶点、到極妙也。

*ニワカに(俄に) *こしらへ(拵へ) *呼れ(れ(衍)) *おいとま(お暇) *到極(至極)

(二月) 七日

明六ツ時、伏見着致し、仕度して姉小路様え上り、此日、哥かるたなそして遊ぶ。

*哥かるた(哥カルタ)

(二月) 八日

此日、御内御年酒にて、石山様、園様、山本様、沢様、蓮觀院さま御ならせられ、御酒大はつみにて、夜三更頃迄。此時、山本様、私え、

梅桜いづれの花の蹊ならんと下され候。

*大はつみ(大弾み)

(二月) 九日

此日、御内大掃事、是もニワカに毛利淡路守さま入らせられ候よしにて、私事お庭の掃事致し、髪を結、大さハキ也。

*ニワカに(俄に) *掃事(掃除) *掃事(掃除) *大さハキ(大騒ぎ)

(二月) 十日

此日朝よりふき掃事、又身こしらへして、昼時、毛利淡路守さま入らせられ、御杯有、色々お咄し有。私事、席上書画認ル。彼是七ツ時、御帰り遊し候。夫より転座して、四畳半にて御内皆々御酒大はつみ也。

*ふき掃事（ふき掃除） *こしらへ（拵へ） *大はつみ（大弾み）

（二月） 十一日

此日朝より**お庭掃事**、又**ふき掃事**、身**こしらへ**して、女中、御近習衆、皆々御配膳。昼後、松平長門守入らせられ御盃有、又私、席上書画認ル。長門守様、此日三条様えも入らせられ候ゆへ、御座暫してお帰り遊し候。夫より又御内皆々御座敷にて御酒**大はつみ**。此日、石山様ならせられ候。七ツ時、繁の井様ならせられ、又御酒、私事、又席上書画認、是又**大はつみ**也。御帰り、二更也。

*お庭掃事（お庭掃除） *ふき掃事（ふき掃除） *こしらへ（拵へ） *大はつみ（大弾み）

（二月） 十二日

此日昼後より、石山様、大殿様、若殿様、**沢主水**守様、岩井様ならせられ、一更二御帰り遊し候。此日、父さま、小笠原え御使者にて大坂え帰られ候。**最**昼船也。

*沢主水守（沢主水正） *最（尤）

（二月） 十三日

此日、御蔵の**掃事**致し、夕、**哥かるた**する。此日、川端様ならせられ候。

*掃事（掃除） *哥かるた（哥カルタ）

（二月） 十四日

此日、終日遊ふ。此夜八ツ時より四条御旅町出火。此日、毛利淡路守参られ候。

（二月） 十五日

此朝より、**沢主水**守様、忠姫さま、久丸様ならせられ、夕方迄居られ候。此日昼時、小笠原図書守様上られ候。此日昼後、父さま大坂より帰られ候。此日、中院様ならせられ候。

*沢主水守（沢主水正）

（二月） 十六日

此日朝より御蔵の**掃事**お手伝申上候。此夕、殿様お居間にて皆々**哥かるた**する。

*掃事（掃除） *哥かるた（哥カルタ）

（二月） 十七日

此日、父さま小笠原え使者二行れ候。此日八ツ時比、唐津山田直助様上られ候て、木津村の事二付御咄しに参られ候へとも、父さま帰られすゆへ、御帰り遊し候。此夕三更迄遊ふ。

(二月) 十八日

此日、父さま、山田直助様え木津村の事ニ付御咄しに参られ候。此日七ツ時前、壬 (空白) 様ならせられ、夕、殿様御居間にて遊ぶ。壬 (空白) 様、一更ニ帰られ候。此日、三条様ならせられ候。

(二月) 十九日

此日朝より、父さま、典膳、私、三人連にて宮原先生え御礼に行、典膳入門する。暫して帰り、勝蔵子え行、庭より帰り、又寺町え行、昼飯して帰り、早々御所御舞御覧拝見に行。此日、二位さま上られ候。

(二月) 廿日

朝より身こしらへして御殿出立致し、寺町四条え寄、昼、伏見え着。船浪花や。此時、同家に広甚、二畳庵居られ候。早々御用船言付候て乗船する。此日、長閑の天気にて、船中一入面白き事也。夕、半時に浪花え着。此夜、辻さまにて臥。父さま木津え帰られ候。
*こしらへ (拵へ) *半時 (飯時)

(二月) 廿一日

朝、中之島え帰り候処、折あしく豊島さま大師廻りにて留主中ゆへ、内え入事出来不申、無扱、終日辻さまにて暮らす。此日より出物いたみ候。夕、元之助、木津より帰り候ゆへ、中之島にて臥。

(二月) 廿二日

此日より子達稽古はしめ致し候。此日も出物いたみひとく候て、終日臥。八ツ時後、父さま木津より帰られ候ゆへ、早々森若さま頼みに行れ候処、折あしく留主中にて、夕方御こしにて、私、出物チャウにて候間、今少シ時延候へは六ツヶ敷様様子にて、早々ヒルをかけてもらい候て血を吸し候。一更後迄血出。

*出物チャウ (出物疗) *ヒル (蛭)

(二月) 廿三日

此朝もヒルかけてもらい候。此日早朝、池内大学、浪花橋にて鼻首仕られ候。父さま、此日、夜船にて上京致され候。智明院さまと十助と三人連也。

*ヒル (蛭)

(二月) 廿四日

此日、私事、出物追々によるしく候て、後藤先生え頼用有て参り、暫して帰り候。又、竜章堂え本調に行、夕二更迄読書する。

(二月) 廿五日

此日朝より草稿認ル。夕、皆森さま初釜にて呼れ候。一更二帰り候。詩作、五更迄。

(二月) 廿六日

朝、後藤え行、稽古して帰り、心齋橋通唐物町辺迄調物に行、帰り、井上氏え行、暫咄して帰り候。夕二更迄読書。

(二月) 廿七日

朝、後藤え行、帰、認物する。此日八ツ時より木津え帰り、日暮後に中之島え帰る。三更迄読書。

(二月) 廿八日

朝、後藤え行、昼後より楚山先生え行、良久しく咄して、木津え帰り、夕方より帰り、中之島え半時後に帰り、読書、一更迄。此日、森三節さま御見舞下され候。

*半時(飯時)

(二月) 廿九日

朝、後藤え行、画の認物する。七ツ時頃より梶木町え行、高岡氏居られ候て茶の稽古する。日暮帰り、読書する。此日、松平春嶽さま、隣家越前屋敷御着有。

*隣家(隣家)

(二月)

二月朔日

此日昼後より楚山先生え行、暫して帰り候。日暮也。読書、四更臥。

(二月) 二日

此日朝、後藤え行、帰り候処、春嶽さま馬乗にて入城致され候。此日、鴻庄の摺り物認ル。此七ツ時より風邪にてあしく臥。

(二月) 三日

此日、米年画帖認ル。

(二月) 四日

此朝、扇面太平楽、昼迄に認ル。此日、木津より子供参り、唯専寺に結構成御法坐御坐候ゆへ私に参るやう申来、夫より八ツ上りして木津え帰る。此夜、木津にて一宿する。

(二月) 五日

朝、木津より帰り候処、梶木町より呼に來、昼前時参り候処、若林より帛少頼に來候て画の相談する。此日利休息にて、広間大せい、ケンバさまの御手前にて一服呼れ、後、御膳呼れ、此時、宗祝さま、宗三さま、高岡、岸畑、早谷、藤中、岩永、布吉、御膳濟て、宅え帰り、早速木津え帰り候。此時元之助と同道也。行懸、難波新地見せ物【一】する。木津え帰り、唯専寺え行、八ツ時御法坐に逢。真に難有き事也。夕御坐にも逢。木津にて一宿する。

*帛少 (帛紗) *ケンバさま (玄蕃さま) *見せ物 (見世物)

(二月) 六日

此日、手本認。昼後より唯専寺え行、御法坐聴聞する。真に今度と今度は南無阿弥陀仏間得られ候。夕御坐にも逢。此日、元之助事中之島え帰り候。又一宿する、木津にて。

(二月) 七日

朝、中之島え帰り候処、山崎にて人殺され居り候。此日、帛少下絵して梶木町え持参する。帰り、辻さまえ行候処、皆々風引にておやすみ遊し候。暫咄して帰り候。此日、後藤え稽古に行。此日、木津え帰り、唯専え参る。此時、山水画、書一枚、歡喜哥三首、長樂寺さまえあける。ひとく感心致され候。夜御坐に逢、又木津にて一宿。是も元之助と同道也。

*帛少 (帛紗) *風 (風邪)

(二月) 八日 カ

朝、木津より帰り、絹地わくえ張、帛沙下絵作。此日大雨中、七ツ時頃より元之助と同道にて木津え帰る。西御堂の辺にて小笠原図書頭さまに逢。図書さま、此夜上京致され候。此夜御法坐に逢、又一宿する。

此朝、天王寺楚山先生え行候処、先生病氣あしく候て不逢帰り候。

*帛沙 (帛紗)

(二月) 九日

朝、木津より帰り、帛沙認ル。昼時、落歡尋に梶木町え行。又、木津え帰り、八ツ座に逢、又夕御法坐に逢。真に此御坐聞て、私、阿弥陀さまにたすけられ候て、信づるより外別のシサイナキ事也。此時の哥に、

きのふまで弥陀の六字とおもひしにけふハ我身の信と也けり
と読て、長樂寺さまえ奉る。此夜、木津にて一宿する。

*帛紗(帛紗) *落歛(落款) *シサイ(子細)

(二月) 十日

朝、木津より帰り、桐箱桂画認、摺り物下画認、画表具下画認ル。此日、京姉印さまえ文出。夜三更迄読書する。此朝、後藤え稽古に行。

(二月) 十一日

朝、後藤え行、稽古して帰り候。摺り物下絵認ル。夜三更迄読書する。

(二月) 十二日

朝、後藤え行、稽古して帰り候。此朝、鴻庄店人二人来、摺り物之義にて頼に来。又此朝、辰巳や店人来、ケヤキノ額頼みに来。此朝、京師より文来。此文の義ニ付木津え帰る。八ツ時後に帰り、夫より細矢え行候処、水谷、八住、田伏、広岡貞吉、おちへさま、花月仕られ候て、暫見ている。済て、廻り炭、私もよる。済て、一服呼れ候て帰る。日暮也。読書、一更二臥。

*義(儀) *ケヤキ(櫟) *義(儀)

(二月) 十三日

此朝、辻弥七さま来られ候て、額の義ニ付下画認ル。夫より後藤え行、稽古して帰り、摺り物二枚認、額面にかゝる。此夕、京師え文出す。夜読書、三更迄。一手前する。四更二臥。

(二月) 十四日

早朝より額面にかゝる。又此朝、摺り物下絵二枚認。昼後、額面認上ル。夫より円刀掛にかゝる。此日京師より文来。此日八ツ後より辻さまえ行、お久のさまおしへして帰り候。夜、二更二臥。

*おしへ(教へ)

(二月) 十五日 カ

早朝より板屋来、又摺り物認。画帖二冊認、又円刀掛認。此日、昼飯、辻さまにて呼れ候。昼後より上田さまと鶴万寺参る。桜満開也。遊人沢山来ル。七ツ時帰る。此夜、読書、五更迄。

(二月) 十六日

朝、後藤え行、稽古済て帰り、此時辻さまえ行、三人教して帰り、此時井上さまより呼来、昼後より北野別荘え行、遊ぶ。日暮後に帰る。夜、読書。一更後、父さま京師より帰られ

候。三更二臥。

(二月) 十七日

朝、後藤え行、稽古して帰。此時、山田直助来、暫咄有て、昼後帰られ候。此昼後、父さま木津え帰られ候。私、円刀掛認ル。夜、到三更臥。読書。

(二月) 十八日

朝、後藤え行、稽古して帰り、円刀掛認ル。此八ツ時、井上さまえ行、稽古をしへ候。此時、おふささま、おあきさま、謙二郎さま、おとしさま、画の入門致され候。七ツ時に帰る。此夜、読書、到三更臥。

*をしへ(教へ)

(二月) 十九日

朝、父さま木津より帰られ候。私、後藤え行、稽古して帰り、終日刀掛認ル。此日、京姉印さま、典膳子より文来、夜一更二臥。此日朝、井上市兵衛さま来られ候。八ツ時、井上金三郎さま来られ候。

(二月) 廿日

朝、後藤え行、稽古して帰り候。此日、辰巳屋より頼事、扇面彩色牡丹認て、此日、父さま井上さまえ行れ候て、又辻さまえ行れ、昼飯呼れ候。又豊島さま二而薄茶呼れ候。私、豊島さまえ行、お雪さま手前にて御茶呼れる。此日、父さま木津え帰られ候。私、読書、詩作、到三更臥。

*昼飯呼れ(れ)(ママ) *薄茶呼れ(れ)(ママ)

(二月) 廿一日 カ

朝、後藤え行、稽古して帰り候。此朝、京姉小路さまより文来、殿様弥廿四日御拝賀治定あらせられ候て父さま早々上京致す様申来候。此昼後、井上え行、暫して帰り候。扇面認ル。此日七ツ時、父さま木津より帰られ候。夜、到二更臥。

(二月) 廿二日

早朝、父さま今伊船にて上京致され候。私、後藤え行、稽古して帰り、扇面認上ル。又丸刀掛認ル。夜、到三更臥。

(二月) 廿三日

朝、後藤え行、稽古して帰り、円刀掛、終日認ル。此日昼後、辻さまえをしへに行、八ツ後帰り候。夜三更二臥。詩作、読書。

*をしへ(教へ)

(二月) 廿四日

此日、後藤え行、学文。帰り、辻さまえ行、教書。帰り、刀掛認上ル。此日、京父さまより文来、又三条河原首三ツ瀑在之候。

足利高、足利義詮、足利義満、制札之逆賊、正名分之今日ニ当り、鎌倉以来逆臣一々遂吟味、可処誅戮之処、此三賊、巨魁たるに依而、先其醜像え加天誅者也。 文久三亥年二月廿三日

夜、到三更臥。読書、詩作。此日、京師え文出。

*三ツ瀑(三ツ曝) *足利高(足利尊氏)

(二月) 廿五日

此日昼前より木津え母さま所旁にてあしきよしゆへ見舞に参り候処、病氣追々よろしきよし也。日暮に帰り候。夜、読書、到一更二臥。

(二月) 廿六日

此日、後藤え行、学文。帰り、此昼後、豊島さま木伊別荘野田在之右方え行れ、私来る様申居られ候て、先豊島さま行れ、私、お雪さま二人連にて跡より行、野田中村え行候処、御主留主にて、内方のみにて薄茶呼れ、又後馳走に相成、此座敷北眺望真に黄金世海也。菜花満開、久しくおもしろき儀にて、夫より帰り、右木伊別荘え行、かへる処、豊島さま、春田さま帰り来られ候て、夫より同道して宅え帰り、日暮也。夜、読書、三更に到て臥。
*後馳走(御馳走) *黄金世海(黄金世界)

(二月) 廿七日

此日、絵表具認上ル。井上より呼に來、行候処、庭前桜花見にて、楼にて酒宴、別家の家内衆客也。夜三更二臥。

(二月) 廿八日

朝、後藤え行、稽古して帰り、此日、辻氏雛御膳に招かれ、呼に來候て、夕方より行、一更二帰り、読書、到四更二臥。

(二月) 廿九日 カ

朝、後藤え行、稽古して帰候。辻さまえ行、をしへして帰り、此日、隣家より呼に來、薄茶呼れる。夜読書、到四更二臥。

*をしへ(教へ) *隣家(隣家)

(二月) 晦日

此日、後藤え行、稽古して帰り、五節句短冊認ル。此日、京師より便有。姉小路殿様より元之助え結講成御刀戴され候。此時の文に、軍弥決り候由申来り候。此夜、画ノ図しらへ、又読書、夜四更迄。

(三月)

三月朔日

此日、五節句短冊五枚認上ル。此日、光円寺え講金集めに行、夜一更二臥。

(三月) 二日

此日、終日不筆持、ゴテ、と暮らし候。夜、読書。三更二臥。

(三月) 三日 カ

此日昼時より辻さまえ御礼に行、夫より井上さまえ行、お雛さまの御前にて三曲和。八ツ時、私、細矢え行候処留主中にて、夫より木津え行、**玄番さま**の手前にて薄茶飲。此時、布吉居られ候。夫より又井上さまえ行、お雛さまの馳走呼れる。日暮、帰る。一更二臥。
*玄番さま(玄蕃さま)

(三月) 四日

朝より釜懸、豊島さま、又お雪さま呼、昼飯して木津え行、**玄番さま**の手前濃茶呼れ、後、私一手前する。夫より帰り、豊島さまにて暫遊ぶ。又井上さまえ行、遊ぶ、日暮迄。夫より帰り、平藤え行、遊ぶ。帰り、読書、二更二臥。
*玄番さま(玄蕃さま)

(三月) 五日

此朝、宗隆さま京師より帰られ候て、私呼に来、早々行候処、父さま申され候、此十一日上様將軍さま御供にて加茂え御参あらせられ候ゆへ、右様な事ハ稀なる事、中々なき事ゆへ、拝見に上京する様申居られ候。此昼時、後藤え行、稽古して帰り候。八ツ時より木津え相談に帰る。此夜、木津にて一宿する。

(三月) 六日

朝、木津より帰り候。此日、**ふく少**認ル。夜、読書。上京**こしらへ**にて、三更二臥。
*ふく少(帛紗) *こしらへ(拵へ)

(三月) 七日

此日、鴻庄別家よりの頼にて横物仏懸蓮認、夫より帛沙砂子ふる。此日七ツ後、堺吉井来、順蔵、吉助、三人連にて一宿する。

*帛沙(帛紗)

(三月) 八日

此日朝、梶木町え行、宗隆さまと同道にて上京の相談致し、薄茶一服呼れ、此時、堺吉井、赤松居られ候。夫より辻さまえ行、をしへ致し居り候処、元之助呼に來、早々帰り候処、木津智明院さま、みつへさま來られ候て、早々こしらへして、隣家お雪さま、私、元之助、智明院さま、みつへさま、因州より來り候十助つれへ歩いて中城迄行。此出立昼時、中城え日暮着。此夜、田尻氏にて一宿。

*みつへさま(美つへさま) *こしらへ(拵へ) *みつへさま(美つへさま)

(三月) 九日

朝出立の処、智明院さま、逢人有候ゆへ夫に逢より上京致し度よし申され、今一日滞留してくれ様申され、此日、常称寺え一寸行、終日三絃弾たりして大たいくつ。又一宿する。

(三月) 十日

朝より大雨。此日なり候て、知明院さま行ぬと申され、お雪さま、私、元之助、田助、四人連にて雨中徒步行、本津高月屋にて昼飯して行、八幡山崎の雨中景色、近く見ゆれハ又遠く、新樹の緑青々と、青葉交りの遅桜所々に咲残り、又雨雲のたへ間より見へつかくれつ、其景色真に筆も及はぬ事と存し、此辺ハ雨中の旅もうしともをもハす歩き候処、もはや段々足もいたため、追々雨中益甚しく相成、誠になしき程に相成候也。七ツ時に御殿え行。御内皆々ひとくあんし居られ候。此時、豊島さま、竹内さま、仁太さま、三人連にて日御門前にて待居られ候。皆々御殿え上られ候。私事二更二臥。殿様御所にて御留主中、半時頃御帰りあらせられ候。此日、あまりさハかしくゆへ起候処、殿様御供の御こしらへにて大さハき也。此時、殿様え御機嫌伺に出ル。大御座敷にて御束たいにて誠にりつはな事也。夫より御所え御参りあらせられ候。此時、夜八ツ時也。夫より皆々女中かたこしらへして、(翌日へ続く)

*うし(憂し) *をもハす(思はず) *あんし(案じ) *留主中(留守中) *半時(飯時) *さハかしく(騒がしく) *こしらへ(拵へ) *大さハき(大騒ぎ) *御束たい(御束帯) *こしらへ(拵へ)

(三月) 十一日

夜明後、御上由姫さま御一方にて、女中皆々御供して伏見さまの前米屋え行。大分久しくして上様御行御行列、真に有かたき事、御鳳輦にて上様の御すかた押し候より、あまり有かたくゆへ涙をこほし、真もつたいなき事也。夫より御公家さまかた、將軍、皆々騎馬に

て、夫ハ／＼見事の事也。昼後に御内え帰り候。夫より大坂より参り候人々え御坐敷方々
拝見させ、夫より大坂の人皆々帰られ候。又、私、おきくさま、おさつさま、蓮観院さま
の下男つれて、
(空白) 尼寺え行、蓮観院さまの御供して加茂の堤え行、御還行拝
見する。又しやう明にて、夫ハ／＼見事の事也。御帰り一更也。夫より暫して殿様御帰り
遊し、殿様御居間、御馳走戴候て、暫御咄し申上、三更二臥。

*御行(御幸) *すかた(姿) *御還行(御還幸) *しやう明(声明)

(三月) 十一日

此朝、宗隆さま、吉井、同御きんさま、順蔵、吉助、細矢貞順さま、お千枝さま、御連さ
ま、広甚、直太郎、つる、幸助、皆々来、私同道して下加茂御跡拝見二行。大谷、知恩院、
夫より祇園栗飯屋え行、昼飯して、西大谷、清水、方々え行、帰り懸、七ツ前、知願院さ
まえ行候処、御酒にて、三更二相成、夫より差し市へ皆々帰られ候。私事ハ姉小路さまえ
帰り候。

*御連さま(御蓮さま)

(三月) 十三日

此日、御殿にて終日遊ぶ。此夕方、木津連中皆々乗船致され候。

(三月) 十四日

此朝早く伏見え出るはつの処、紀州家老御殿え上り、親さまえ対顔のはつゆへ暫見合候へ
とも上られすゆへ、父さま寺町え御出被成候。寺町にて昼飯して、伏見え行道にて高瀬え
乗、父さま、先船しらへに行れ候。八ツ後、乗船する。夜一更二着。豊島さまえ帰り、三
更迄咄しして、四更二臥。

*はつ(筈) *はつ(筈)

(三月) 十五日

此日、私少々風邪にて終日ねたり起たりしてくらす。此日、父さま木津え帰られ候。夜分、
木津より帰られ候。

(三月) 十六日

此日、父さま、昼前より中城え向て行れ候。此日、津堂圃齋来、暫居り候て帰られ候。半
切山水認ル。此夜、風邪にて早寐する。

(三月) 十七日 カ

此日、上田さまより御頼みにて、長州長門守さまえ上られ候絹地秋の高尾認ル。夜、明六
ツ迄作図、手本認ル。

(三月) 十八日

此日、又絹地春の嵐山認ル。高尾と二幅対也。八ツ時より木津え帰り、木津にて一宿。

(三月) 十九日

朝、木津より帰り、後藤え行、稽古して帰り候処、井上さまより呼に來、参り候処、**浄瑠**り聞すと申され、七ツ前迄遊ぶ。此夜、認物、明六ツ迄。

*浄瑠り(浄瑠璃)

(三月) 廿日

此日、後藤え行、学文。帰り、半切三枚認ル。夜一更二臥。此日、京典膳さまより文來。父さま、いまた京え御出なき由申て御心配致し居り候よし申來候。此日、京え文出。

(三月) 廿一日

此日、半切書認ル。此日、京父さまより文來。八幡御幸弥四月四日と相定り候由申來り候也。此日、京師え包物出す。夜三更二臥。

(三月) 廿二日

此日、後藤え行、学文。帰り、認物する。此日、辻氏え行、教して帰り候。此夜三更二臥。此時三更後より天満出火。此日、京師え扇子出。堺、中新えも文出。

(三月) 廿三日 カ

此日、後藤え行、**学文**て帰、昼後より井上さまえ行、暫して木津え帰り候処、元之助來。此日、曾根崎竹内氏、釜懸られ候ゆへ呼に來候まゝ、早々元之助と同道にて帰る。夫より**豊しま**お雪さまと竹内え行、酒肴にて呼れ、後薄茶出ル。一更二帰る。一更二臥。

*学文て(学文して) *豊しま(豊島)

(三月) 廿四日

朝、後藤え行、学文して帰り、此日八ツ時、京師より文來、廿二日父さま中城え行れ候。此夜三更二臥。此日、梶木町え行、茶の稽古する。

(三月) 廿五日

此日、風炉先屏風認ル。此八ツ後時、おたきさま誘引仕られ候ゆへ、同道して細矢え行、二度花月する。七ツ時帰る。読書、二更二臥。

(三月) 廿六日

此朝、後藤え行、学文して帰り候。風炉先屏風認ル。此日八ツ時、森さまえ行、出物見てもらいに行、一服呼れ候て、暫遊ふ。梶木町え行、**ひる五疋懸**てもらふ。是又七ツ時に帰る。夜読書、二更二臥。此日七ツ時前、父さま中城より帰られ候。此夜木津え帰られ候。
*ひる(蛭)

(三月) 廿七日

此朝、後藤休。此日**ひる八疋懸**ル。父さま、此夕方、乗船致され上京。夜一更二臥。
*ひる(蛭)

(三月) 廿八日

此日、後藤え行、学文する。此時、仙台人来、先生に書を頼に居り候処、又私え画認てくれ様申、早速席上する。夫より帰り、八ツ時より森さまえ行、出物見てもらい候処、今一度**ひる懸**ル様申され、木津にて**ひる九疋懸**ル。大そふ血出ル。七ツ時に辻さまえ帰り、夕飯呼れ候て帰り、早臥する。
*ひる(蛭) *ひる(蛭)

(三月) 廿九日 カ

此日、風炉先屏風認ル。夜、読書、認物、明六ツ迄。此夕、堺吉井、梶木町え来。此段吉助申来候。

(三月) 晦日

朝、後藤え行、学文して帰り候処、吉井、昼時来、八ツ時迄珍談して帰り候。夫より私、元之助連て木津え帰り候。木津にて一宿する。

(四月)

四月朔日

此日昼後時迄木津にて遊ぶ。夫より帰り、終日コテ／＼して暮らす。夜、読書、認物、明六ツ迄。

(四月) 二日

此朝、京父さまより店走りにて文来、上様八幡えの行幸ハ延引成候よし申来り候也。辻さまえ行、**をしへ**して、此時、御後室さまの御咄しにて**ひ間**入候也。一昨晦日日暮、辻さま**大そう動**也。昼に帰り、**風呂先**認ル。夜一更二臥。此朝、楚山先生より山陽の書見てもらいに來。此日八ツ時より井上さまえ行、暫居り候て帰り候。

*をしへ(教へ) *ひ間(暇) *大そう動(大騒動) *風呂先(風呂先)

(四月) 三日

朝、後藤え行、学文候て帰り、風呂先認ル。夜、読書、明六ツ迄。

*風呂先(風呂先)

(四月) 四日

朝、後藤え行、学文。帰り、絹地美人認にかゝる。此昼後、およね来。八ツ前よりおよねと同道にて戎橋迄行。私、木津え帰り、母さまと同道にて瓦や橋吉井え行。長野伯父居られ候て、浜屋敷にてお滝子出養生仕られ候て、浜屋敷にて日暮迄遊ぶ。夫より私事中之島え帰り、二更二臥。此日、京師より文来、八幡さまへの御行幸ハ弥十一日と治定致し候由申来り候。

*瓦や橋(瓦屋橋)

(四月) 五日

此日、上田さまより五霊芝居え行。前芸、太甲記鐘の長短、後おはん長右衛門也。七ツ時に帰る。夜六ツ迄。

*五霊(御霊) *太甲記(太功記)

(四月) 六日

朝、後藤え行、稽古して帰り、美人認ル。夜一更二臥。

(四月) 七日

朝、後藤え行、稽古して帰り、美人認て、辻さまえ行、良久しく御咄申上居り候て、帰り候。夜一更二臥。

(四月) 八日

朝よりコテ／＼して、此日、上田さまより蛤雲亭にて御茶呼れ候て、七ツ前迄遊ぶ。此時、井上氏より人来、明九日よりおきたさま八幡え行れ候二付、私を誘に來候ゆへ、私も前加茂の行幸拝見致し候故御断申候へとも、上田氏より帰り、又井上氏え断に参り候処、ひとくすゝめられ候て、色々考候て、先々私も行候様に申て帰り、豊島さまにて色々相談いたし候処、先々御出のつもりに被成候か由と申され、日暮より元章連て木津え帰り、相談いたし、先々行治定いたし候也。木津より一更半に帰り、明六ツ迄こしらへ物いたし候。

*由(好) *こしらへ物(拵へ物)

(四月) 九日

早朝より井上さまえ行、暫待候て、此時、連、おきたさま、姉いとさま、豊太郎さま、私、店玄助、おこうさま、(空白)、跡男女ハ廿一人也。晴天にて歩行にて、私事守口より駕にて、古田にて昼いたし、駕に乘たり下たりして、日暮に八幡え着。此日、大坂より道筋拝見二行人にて道続き候也。園の法園寺にて一宿する。
此日夕、四月六日出の合利着する。

*跡(後) *合利(行李)

(四月) 十日

此日朝、院主さまの前にて席上書画認ル。昼後より八幡山え詣参する。帰り、終日遊ぶ。此夜、又外に客来多くして蒲団御坐なく、廿一人の中蒲団五疊也。
内元之助留主番也。

*詣参(参詣)

(四月) 十一日

明六ツ起にてこしらへして、淀の大橋の西詰拝見場所え行、終日行幸を待、漸日暮、此処え御通りあらせられ候へとも、乱行列也。拝見して帰り候処、八幡の火真に満目也。

*こしらへ(拵へ)

(四月) 十二日

朝御還行四ツ時と申事にて、朝五ツ時、人試に遣し候処、もはや御還行御済せられ候て、真に残念也。四ツ時より法園寺立て、宇治え行候処、昼前也。宇治も大こんさつにて、宿ことくくつまり候て、もはや伏見え帰るつもり候、いろくとして、漸、菊屋北楼あき候ゆへ、先々一宿の様子に相成候也。夫より昼飯して、おこうさまと私、跡下男二人連て扇芝、鳳堂、夫より黄はく、恵心院、方々名所え行、お亀石の流の前に岩に腰掛て、宇治の真景写し候処、真に妙也。西に日かたむく、東に月ハ上る、真に天方九如間、此艷景、筆に及はぬ事。帰り、山水含晴暉、楼にて月見致し、又夜、月景色一入妙也。

*御還行(御還幸) *もはや(最早) *御還行(御還幸) *大こんさつ(大混雑)
*ことくく(悉く) *もはや(最早) *跡(後) *黄はく(黄檗) *天方(天保) *山水含晴暉(山水含清暉)

(四月) 十三日

朝、芝舟にて帰り候。真に宇治の景色残り多く候へとも、かなしい哉、連人と共に伏見え着致し候。此日昼前也。又伏見大こんさつにて船一艘もなく、七ツ時前迄色々心配いたされ候へとも、とうく出来ず仕舞にて、夫より伏見立て、日暮に橋本え着す。此時、二十石船有て、三更ニ乗船する。桜宮にて日の出也。

*大こんさつ(大混雑)

(四月) 十四日

朝、井上氏え帰り、朝飯呼れ候て、帰り候。此時、辻さまえ行、暫して帰り候。此七ツ時前より木津え帰り候処、母さま留主中、唯専寺え行、暫して帰り候。此時、母さま帰られ候て一宿する。

(四月) 十五日

朝、髪結候て、帰り候。此(日)、風邪にてコテくして暮し候。

(四月) 十六日

此日、後藤え行、稽古して帰り、半切四季山水認。此日、京都より合利着物類着する。

*合利(行李)

四月十七日

此日、終日写物する。夜、読書三更迄。

(四月) 十八日

朝、後藤え行、稽古して帰り、終日認物。此夜、風邪。此日七ツ時頃、長野吉井儀蔵子縁段二付、内藤直江さま見に来候へとも、直江子病氣にて不逢。此夜、一宿仕られ候て、私事夜通し読書する。此夕、儀蔵子豊島氏え行れ、私も行、薄茶呼れる。

*縁段(縁談)

(四月) 十九日

朝、後藤え行、稽古して帰り、辻さまえ行、教して帰り候。終日認物する。

(四月) 廿日

朝、後藤え行、昼後、木津え帰り、夕方、中之島え帰り候て、夫より腹痛にて、此夜、上下しにて、夜通しいたみ候て、暁烏啼声聞て少々ねむり候也。

*上下し(あげくだし)

(四月) 廿一日

此日、終日臥。此日、將軍さま御城え御着也。

(四月) 廿二日

早朝、姉小路様より急使来、此度殿様御勅使にて、浪花え御下りのよし申来、夫二付、親さま御供仰付られ候ゆへ、父さま呼に來候へとも、父さま中城え行れ、又使早々中城えか

けつけ候也。元之助、早々木津え歸し候。

(四月) 廿三日

此朝、將軍さま鍋島の浜より御乗船にて、兵庫へ行れ候。此夜七ツ時、御勅使鍋島の浜え御着にて、西御堂え御入らせられ候。西御堂御旅館也。此日七ツ時前、堺お吟子、小猛連て来、小猛暫稽古執行の為、御預に來り候。夫より、夕方お吟子堺え歸られ候。

(四月) 廿四日

此朝、早々父さま一寸歸られ候。私、此昼後、木津え歸り、母さまと同道にて北え調物に参り、西御堂さまえ参り候処、折よく殿様御入城の時にて拝見致し、夕方中之島え歸り候。此日、元之助も御供致し、二更二御城より歸り候。

(四月) 廿五日

早朝より辻さま大せい拝見ニ御出にて、昼過時、前浜え御出にて、御乗船遊し、天保山え御入らせられ、夫より灘、兵庫、**摩邪山**え御上り遊し候。此夜、**摩邪山**にて御一宿あらせられ候よし也。私事、八ツ時より楚山先生え行、七ツ時に歸り候。此日、津田山下安治郎子、卯吉子來り候。画を頼み候。

*摩邪山(摩耶山) *摩邪山(摩耶山)

(四月) 廿六日

此日、姉小路様紀州の方え御ならせの処、風にて急々御歸りあらせられ候。此朝より、私事、光円寺より呼に前以來居り候ゆへ、朝行懸、又安治郎子來、暫して歸り、また法亭子來、暫咄して歸り、此時光円寺より又呼に、使來り候。夫より光円寺え行、院主と同道にて薩摩堀専念寺と申寺え行、院主并黄泉老僧、又光円の肖像写、昼飯呼れ、又酒肴にて、八ツ後時歸り、此歸り懸、井上さまえ寄、暫致し候処、内より呼に來、早々歸り候処、辻さま大勢來て居られ候て、御勅使御歸り拝見ニ御出被成候処、**面側**將軍さま御歸り遊し候。御船也。此夕、雨中にて、姉小路様鍋島の浜御着にて、御輿にて大江橋御渡りにて、御堂え入らせられ候。一更前也。

*面(おもて)

(四月) 廿七日

此日、上りの草稿認ル。此日、殿様え御機嫌伺に鯛味噌五曲進上致し候。此昼後、殿様、天王寺、住吉、堺えならせられ、堺にて御一宿遊し候。此(旦)、京師、京姉小路さまえ留主見舞出す。夜三更二臥。此日、小猛あまり歸りたかり候ゆへ、吉井え文出す。

(四月) 廿八日

早朝、將軍さま天王寺より、住吉、堺へ行せられ候よし也。私、昼後より天王寺楚山先生へ行、暫して帰り候。又木津え寄、中之島え帰り候。此日、朝より昼迄上りの草稿認ル。此日、法亭扇子取に来。

*上り(幟)

(四月) 廿九日

朝より上り認ル。此日日暮後、御勅使紀州より御帰りあらせられ、前の浜え御船着遊し候。此時、堺吉井御供致し、此夕、私方にて一宿する。此日、堺吉助、小猛向ひに参る。昼後より帰る。

*上り(幟) *向ひに(迎ひに)

(五月)

五月朔日

朝よりのほり認上ル。此日昼後、西御堂え行、殿様に御目見致し候。此日、殿様御入城あらせられ候。此御留主中、典膳子、右京子にて御堂三階外方々拝見する。七ツ時に帰る。此夕、伊藤軍八、吉井源中来。此夕暮後、御勅使、前浜にて御乗船あらせられ、御帰京遊し候。此時、雨中。此夕、堺吉井、又一宿致し候。

*のほり(幟)

(五月) 二日

朝四ツ時、吉井帰り候。此日、侍二人父さまに御頼みの筋有て来り候へとも、留主中にて帰り候。

(五月) 三日

此日、終日肖像認ル。此夕、京師光田寺さまより文来。夕方より私木津え帰り一宿する。夜、元章、麟治郎子、守家。

(五月) 四日

朝、木津より帰り、此日、諸払延引にて十五日払。此日、終日肖像認ル。夜二更二臥。

(五月) 五日

朝より終日肖像認ル。此日、一幅認上ル。夜三更二臥。

(五月) 六日

朝より又肖像にかゝる。終日認物。

(五月) 七日

朝、後藤え行、学文で帰り、一幅肖像認上ル。此日、上田蛤雲亭にて釜懸り、呼に來られ候ゆへ、絹に攀して行。薄茶、後御酒にて、七ツ時に帰る。夜三更迄読書。

(五月) 八日

此日、又肖像にかゝる。夜二更二臥。此日、**からたまけ**にて、あしく候。

*からたまけ(体負け)

(五月) 九日

此日、肖像認ル。此日暮より、上田さまより呼に來、浜大和屋にて**浄瑠璃**有。隣家お雪さまと同道にて行。一更二帰り、三更二臥。此夜、お千枝さま一宿被成候。

*浄瑠璃(浄瑠璃)

(五月) 十日

此日、肖像認ル。夜二更二臥。

(五月) 十一日

此日、肖像認ル。此七ツ時、大雨中。私、木津え帰り候処、母さま留主中にて、唯専二居られ、同寺え行、一更迄遊ぶ。此夜、一宿。

(五月) 十二日

朝、木津より帰り、肖像認ル。此日、光円寺來られ候て、暫して帰られ候。此日八ツ後時、父さま二位さま連て、姉小路様のべ連て、帰られ候。日暮前より木津え帰られ候て、一宿**到させられ候**。

*到させられ(致させられ)

(五月) 十三日

朝、後藤え行、稽古して帰り候処、昼前、父さま木津え帰られ候。此日、私、豊島お雪さまと同道にて、細合さまより、此日先宗匠の三十三回忌にて香催有、八ツ時より行。最初、薄茶、夫より香、追善香、後、蓮葉香。連客十四人、四疊半の間也。**半時**に帰り候。此日、父さま七ツ時前より堺え行れ候。二更二臥。

*半時(飯時)

(五月) 十四日

此日、横物二枚認ル。此朝四ツ時、地震ス。夜三更二臥。

(五月) 十五日

此日、横物七枚認ル。此朝、父さま木津より帰られ候。十四日夜、堺より父様帰られ候。

(五月) 十六日

此日、横物二枚認ル。此日、父さまと母さまと私、三人連にて南え買物二行。父さま中之島え帰られ候て、私と母さまと同道にて木津え帰る。手本認、一宿する。

(五月) 十七日

朝、中之島え帰り、此日、お米女来る。此日、半切一行物認。夜三更二臥。

(五月) 十八日

此日、終日画認ル。

(五月) 十九日

此日、終日認物。此日七ツ時より、細矢え行、茶の稽古して、日暮二帰り候。夜三更二臥。

(五月) 廿日

此日、姉小路様より、急別飛脚にて御団三十本参る。是は殿様浪花御勅使の御土産にて、紀州芳元のうちハ、禁中様え進せられ候ゆへ、私え画を認る様にと仰せられ、大急御用也。夫より団認にかゝる。此夕、父さま留主。夕立して、到而さむき夜也。夜三更二臥。

*団(うちは) *うちハ(団扇) *団(うちは)

(五月) 廿一日

此日もうちハ認ル。夜三更二臥。

*うちハ(団扇)

(五月) 廿二日

朝より御団認候処、昼後八ツ時、姉小路御殿より大急御用の御書面来。書中、殿様御大病ゆへ御状着次第早々かけ付る様にと申来、皆々驚く入候へとも、父さま、是は誠の御病氣にてはなく、是文の様子にては殿様御立腹にて御役御引せられ候哉と父さま存られ、今より早駕にて走より、舟の方早くといふて、夕の早船にて御上京遊し候。

*団(うちは)

(五月) 廿三日

朝、唐津屋敷より尚五郎さま御越にて、京都大變之儀被仰、ひつくり、わつとなく斗也。此日、京師え文出す。此日、私、お米女つれて木津え帰り、七ツ時前に帰り候。母も大驚。

(五月) 廿四日

此日昼前時、京師より店走りにて文来。殿様御事、廿日之夜四ツ時、御所より御退出懸、朔平御門の廻り懸にて、浪人物三人、面を包、うしろはち巻にたすきかけにて、向より御胸を切付、此きつ長六寸深サ四寸斗、殿様、太刀ヲ／＼と四度も仰せられ候へとも、御太刀持金輪勇と申物、御太刀持ながら逃去、御丁ちん物も逃去、御そはに中城右京入られ、此人刀抜放、一人付おつか候処、又殿様え二人かゝり、右京も是ハと跡え帰り候処、殿様御耳より御えりえ懸て三寸斗切付、御鼻の下より又四寸計切計、其間御扇子にて御たゝかひ遊し、かたき、今一度と振上ル刀を殿様御引たくり遊し、わき腹御切遊し候処、雲霞にかたき二人逃去候。夫より殿様御高下駄御召遊しなから、平生同様ニ御走遊し、御かへり遊し候。御内御門前にて又殿様右京(三)御切かけ遊し候へは、右京事、右京て御坐り升と申候へは、よしと仰せられ候。夫より御玄関までならせられ、御玄関より、おたきさまと典膳、右京、三人して御居間迄連れまし、夫よりいろ／＼御物仰せられ候処、常同様の御言葉にて、イシ参り、御ミヤクも平ミヤク也。殿様、胸かくるしい枕をト仰せられ、又うつむせに遊し、終に其まゝ御往生遊し候。三更過頃也。真に京師の人々、町中、裏やに至迄も、泣物斗也。此夕、私、元之助連、卯兵衛と同道にて夜船乗、上京致し候。此日、扇面五枚認ル。

*浪人物(浪人者) *うしろ(後) *はち巻(鉢巻) *きつ(傷) *申物(申者)
 *御丁ちん物(御提灯物) *御そは(御側) *中城(中条) *入られ(居られ) *
 切計(切付) *イシ(医師) *ミヤク(脈) *平ミヤク(平脈) *泣物(泣者)

(五月) 廿五日

朝四ツ前時に伏見え着致し、姉小路様え昼時参り候。御内皆々大愁傷不及言事也。此夜、高松三位様、御所より御勅使にならせられ、

御勅文

口宣案

上卿正親町大納言

文久三年五月廿五日 宣旨

故右近衛権少将藤原公知朝臣

為皇国忠誠苦心 依

叡感不斜 被垂愛憐、

宣贈賜参議左近衛

権中将

藏人權右中弁兼右衛門権佐藤原博房奉

御勅使済て、御内皆々、殿様え恐悦申上、武家の人恐悦に来る。此夜、右の廻状又御当所え御披露に御行せられ候。此夜通。

(五月) 廿六日

朝より右の披露状認ル。諸大名え遣す。此日酉刻、御入棺也。諸藩有志来ル。

(五月) 廿七日

此日、いろくといそかしくくらし候。此日、中条右京子、関白殿より御褒美下され候。白銀五枚。

中条右京

主人於路頭横難之節 抛身命尽忠節之条

神妙之至 被為有

御感候旨 関白殿被命作事

五月

(五月) 廿八日

此日、御内大いそかしく、夜通する。毎夜、諸藩の物、御通夜ニくる。毎日昼夜、尼二人宛来。御内皆々、御通夜する。

*夜通(よどほし) *諸藩の物(諸藩の者)

(五月) 廿九日

此日、朝より大こんさつ。私共七ツ時より、寿部院様、由姫姫、亀丸様、御供女中五人、常見院え先参る。御送葬、酉刻。大そふ御りんはな事也。阿弥陀堂にて御勤済て、御しやう香、御内御一そく済て、諸藩物上香二百人斗、夫より御廟え参る。御上香済て帰る。

*大こんさつ(大混雑) *由姫姫(由姫様) *御りん(御りつ) *御しやう香(御焼香) *諸藩物(諸藩者) *上香(焼香) *御上香(御焼香)

(五月) 晦日

朝、寿部院様、亀丸様、よし姫様、御供にて御廟え参詣する。終日淋しく暮らし候。

(六月)

六月朔日

朝、御廟参詣する。

(六月) 二日
朝、御廟え参詣する。毎夜、お百万勤る。

(六月) 三日
朝、御墓え参詣え父さまと致し、夫より帰り、寺町え寄、暫して伏見え昼時着する。三十石御坐なく、いろ／＼船宿心配致し、漸船出来、乗込八ツ時也。此舟に備前草履取清水と申人謁り、善之助、肥後藩中一人、京師の葉屋勝山、色々面白き咄しより、ふと私の扇見て、夫より船中書画はつみ、色々淀川の真景写、終日面白き事也。乗興て桜之宮迄来候処、浪花の船遊、殊更賑々しく、真に世界の如違也。大川の涼船、満眼花火也。半時頃二中之島え帰り候也。此夜、木津え帰るはつの処、百孫さま、池田さま、御越にて、もはや三更二相成、止行、臥ス。
*参詣(え(ママ)) *はつみ(弾み) *半時(飯時) *はつ(筈) *もはや(最早)

(六月) 四日
朝、木津え帰り、いろ／＼咄し致し、先々母さまも御安心遊し候。父さまも木津え帰られ候。私事一宿する。

(六月) 五日
朝、木津より帰り、終日こて／＼してくらし候。此夕、父さま上京致され、六条前田、七ツ時前来、一更二帰られ候。
此日昼後、井上さまえ行、暫咄し致、帰り候也。

(六月) 六日
朝、後藤え行、稽古して帰り、写物又扇子認ル。

(六月) 七日
朝、後藤え行、学文。帰り、五巾のうれん認ル。
*のうれん(暖簾)

(六月) 八日
朝、後藤え行、学文して帰り、カンタン認ル。此夕、上田蛤雲亭にて浄瑠り有、呼に来、行候て、一更二帰り候。此夕、イタチひとく鳴候ゆへ、又何事のしらせやらんと存し、仏前に香焼、御念仏と共に通夜する。

*カンタン(邯鄲) *浄瑠り(浄瑠璃) *イタチ(鼬)

(六月) 九日

朝、後藤え行、学文して帰り、此日、梶木町え行、画を頼れ、相談する。又茶の稽古する。あまりいろく世人の説にて気色あしくゆへ、昼時より八ツ後迄遊ぶ。此夕、智明院さま、おうさ、見舞に来、夫より私と三人連にて、此夕、將軍京師より大坂え下られ候ゆへ、見物に参り候処、もはや昼七ツ時に着仕られ候也。天神橋より納涼して、鍋島の浜ふらくと帰りまいらせ候。私事、此節心配にて、天神橋迄足ひくく也。此夕、智明院さま、おうさ、一宿仕られ候。此日、京よりの文、智明院さま持参致せられ候。

(六月) 十日 カ

朝、二人帰られ候。朝、後藤え行、学文して帰り候。カントン認ル。此日、京師アえ文出す。

*カントン(邯鄲)

(六月) 十一日

朝、後藤え行、学文して帰り候。カントン認ル。此日、日暮よりお米つれて木津え帰り、唯専寺え行。唯専に彦根の家来衆六拾人斗来居候て、此夜、木津にて一宿。

*カントン(邯鄲)

(六月) 十二日

朝、お米女、中之島え帰り候。私事、天王寺楚山先生え暑中見舞に行、暫咄し致し候処、播仁常造さま来、又暫咄し有て、私事帰り、唯専寺え行、目録、手目録認。此日、終日木津にて遊ぶ。七ツ時後、お米女来、京師父さまより文来候文持参いたし候。夕方より中之島え帰る。此日より唯専寺え彦根家中来る。

(六月) 十三日

うちハ三十本認上ル。

*うちハ(团扇)

(六月) 十四日 カ

此日昼後早々、お米女連て木津え帰る。難波、台額出候て真振々しき事也。木津は台額法度也。夕方より唯専寺え行、大せい連にて難波え行候。木津にて一宿する。

*振々(賑々)

(六月) 十五日

此朝、木津より帰り候。

(六月) 十六日

此日、井上氏より呼に來、昼後参り、終日遊ぶ。夕方二帰宅。

(六月) 十七日

此日昼前、井上氏より呼に來、参り、又終日遊ぶ。夕方、五靈御渡り拝見して暫遊ぶ。半時頃に帰宅。

*五靈(御靈) *半時(飯時)

(六月) 十八日

此日、横物群龜認ル。此夕、木津え帰る。木津にて一宿。

(六月) 十九日

此日、木津月忌にて三部経上り、夕方相済。此夜、米女迎ひに不來ゆへ、又木津にて一宿。

(六月) 廿日

早朝、木津より帰る。群龜認ル。此日七ツ時、梶木町より呼に來、参り、画の相談する。此日、堺中新より文來。

(六月) 廿一日

此日、京師よりの扇面認にかゝる。

(六月) 廿二日

朝、後藤え行、学文、帰る。扇面認ル。此夕、堺吉井より文、菓子來。

(六月) 廿三日

朝、後藤え行、学文して帰る。此日、掃事する。

*掃事(掃除)

(六月) 廿四日

此日四ツ時頃、京六条前田、其外四人客來、昼飯出す。昼後より外四人、外方え行れ候。前田、此夜、木津え行れ、唯專寺にて一宿仕られ候。此夜、川淋しく候。神事二稀なり。

(六月) 廿五日

此日、前田、私宅え來られ候。夕方より、外客沢山來られ候。御渡り相替らす振々しく候へとも、常よりハ船淋しく候。御渡り済て、京客四人來、暫居られ候て、又帰られ候。天

神さま御帰り三更二済。此夜、前田舎。
*振々(賑々)

(六月) 廿六日
此日も前田滞留。終日コテくして暮らし候。

(六月) 廿七日
此日より子達手習稽古有。前田、此日も滞留。京の金兵衛と申人来。此夕、私、お米女連て木津え帰り候。又前田、金兵衛兩人、外方え行れ候。私事、中之島え一更二帰り候。前田、金兵衛、一更前、私より少々早く中之島え帰られ候。金兵衛腹いたみ、夜通し上下しする。
*上下し(あげくだし)

(六月) 廿八日
此日、前田、金兵衛兩人、尼ヶ崎え行れ候はつ^の処、右の腹症にて、早朝より森良葉さま頼みに参り、見舞れ候。此日、終日上下しする。
*はつ(筈) *上下し(あげくだし)

(六月) 廿九日
此日、金兵衛子少々よろしく候ゆへ、前田兩人、昼前より尼ヶ崎え行れ候。

(七月)
(七月) 朔日
此日、扇面廿枚認上ル。京師え扇面出す。

(七月) 二日
此朝、前田兩人、尼ヶ崎より帰られ候。金兵衛子、夜船にて帰られ候。前田氏、又滞留。此夜、米女木津え使に遣し候。

(七月) 三日
此日も、前田氏帰られ候はつ^の処、雨中にて、又滞留。此夕、私、米女同道にて木津え帰り、一更二中之島え帰り候。前田氏、守家をする。此日、京師え便りする。
*はつ(筈)

(七月) 四日

此朝、舟にて京帰のはつ、又雨中にて漸夜船にて前田氏帰られ候。

*はつ(筈)

(七月) 五日

此日、子達七夕認さす。昼上りにて、私、米女、木津え帰る。木津、今明日七夕也。一宿する。

(七月) 六日

此日、終日大さハキ也。日暮早く、おとりも仕舞候て、私、米女、おくま、三人連にて帰る。一更也。此日、京より文着。

*大さハキ(大騒ぎ) *おとり(躍り)

(七月) 七日

此日、内七夕にて朝より釜懸、豊島さまお兩人、薄茶にて呼、七ツ時前より子達皆々お出で、私、おたきさま、お亀さま、利三郎様、皆々手前する。夫より、おとり、内にて大はつみ、又門にておとり大はつみ。一更ニ相仕舞候。

*おとり(躍り) *大はつみ(大弾み) *おとり(躍り) *大はつみ(大弾み)

(七月) 八日

此日、額面草稿認ル。夕方よりお熊女連て木津え帰り、一宿する。

(七月) 九日

朝、楚山先生え行候処、あやにく留主中にて、早々木津え帰り、又早速中之島え帰り候はつこの処、昨夕より大風雨にて帰り不申、此日八ツ後、米女迎ひに参り、道迄帰りかけ候へとも、又風雨にて迹届りにて、此夜、(木津)にて一宿する。

*はつ(筈) *迹届り(後戻り)

(七月) 十日

朝、木津より帰り候処、豊島さまお留主中にて、暫、来々堂にて遊ぶ。又辻さまえ行、昼飯呼れ、暫遊ぶ。其内、豊島さま御帰り被成候。此夜、草稿認。夜三更二臥。終日認物する。

(七月) 十一日

此日、らん間認にかゝる。此日、京姉小路さま、宮原、堺清、文出す。夜三更二臥。読書する。米女、瓦や橋え行と申て得不行、木津え行候て、此夜、帰る。

*らん間（欄間） *瓦や橋（瓦屋橋）

（七月） 十二日

此日朝より欄間認上ル。此夕、梶木町より呼に來、參る。暫して帰り候。

（七月） 十三日 カ

朝よりコテくして、昼時、辻さまえ行、諸払勘定してもらい候。加島屋より灯籠參り、認にかゝる。此日八ツ後時より木津え行、米女連而墓參り致し、又山口さまえ行、暫咄して帰り候。此日、長野吉井より六月廿二日出の包、十二日天下茶迄來、母さま、此夕天下茶屋え行れ、持帰られ候処、伯母さまよりの御なげきの文、此度米女ふらち之儀申來り候。母さま、私、二人して、米女えせんき致し候処、ねからへん答なく、いよく心得違致し候事、無相違様子也。此夜、木津にて一宿。夜、唯專寺え遊ひに行、一更二歸る。

*天下茶（天下茶屋） *せんき（詮議） *ね（根） *へん答（返答）

（七月） 十四日

早朝より帰り候はつゝの処、大雨にて見合し居り、四ツ時に歸り、夫より加島屋え灯籠認上ル。又辰巳屋額面にかゝる。此日もお影にて諸払濟。此日七ツ時前より、米女、木津え行。私事、一更迄縫物する。米女、一更二歸る。

*はつ（筈） *お影（お陰）

（七月） 十五日

此日、梶木町より呼に來、昼後、辻さまえ御礼二行、夫より木津え行、欄間落歎する。此時、辻金兵衛さま居られ候て、私一手前する。暫遊ひ候て帰り候。此夕、上田さまの門にておとり致し候。

*落歎（落款） *おとり（躍り）

（七月） 十六日

朝より帶くけ候て、終日コテくしてくらし候。此夕、おとりする、一更迄。此夜、船にて池田さま上京致され、姉小路さまえ行れ候ゆへ、文事告ル。此日、米女、木津え歸り、一更前二歸る。

*帶くけ（帶紘け） *おとり（躍り）

（七月） 十七日

此日昼前より木津え歸り、米女、此道にて天王寺楚山先生え遣す。八ツ時より中之島え歸る。米女ハ外え廻る。此夕、典膳さま、元之助、市松、三人連にて歸る。内、私老人にて大さハき。三人連中、京師より歩て參り、中城にて一宿。お滝さま、此度改名致され候。

滋井様、名をお附遊し候。千代滝ト名ス。古今集賀部、

亀の尾の山の岩根をとめて落る滝のしら玉千代の数かも

此夜、二更二迄色々咄しする。米女、半時後に帰り候。

*大さハき(大騒ぎ) *二更(二(ママ)迄 *半時後(飯時後)

(七月) 十八日

此日、典膳さま木津え帰り、殿様に御経もらいに帰り候。私事、此夕、尊光寺え参る。御法坐、万福寺也。一更二よほと早々果る。此夕、典膳さま、中之島え帰る。二更二臥。此日八ツ時、御勅使東園中将様、四条侍従様、浪花西御堂えならせられ候。侍従様、御かり衣にて★(守之のみ)馬也。

此日昼九ツ時、天王寺火事。南門、太子堂焼ル。

*御かり(御狩り) *★(守之のみ)馬(騎馬)

(七月) 十九日

此日、典膳様、昼前より方々え行れ候。私事、和田の額面認上ル。又額面ニかゝる。此日、典膳子、木津にて一宿。此夕、尊光寺え参詣する。此日より米女、堂島伊勢庄え行候。

(七月) 廿日

此日朝、元之助、木津え使し候。此日、額面認上ル。此日、典膳子、元之助、皆々帰り候。此夕、私事、尊光寺え参詣する。此時、また宵暮早々、高麗橋魚棚出火。是大雨中也。此時、私事辻さまえ行。辻さま、大そう動也。此時、元之助、迎ひに宅え帰る。三更二止。
*魚棚(魚店) *大そう動(大騒動)

(七月) 廿一日

此日より子達稽古初。終日コテノとくらし候。此夕、典膳子、やつこ二人連にて帰京致し候。是雨中也。夜、読書。二更二臥。

(七月) 廿二日

此日、額面認ル。此朝より腹下りにて、昼飯後より臥、日暮迄。夜二更迄認物。

(七月) 廿三日

此日、扇子拾弍本、認物する。此日、廿一日出にて風呂敷包、姉小路さまより来。典膳さま、早々帰京之赴申来、并米女早々相出し候様申来り候。

*赴(趣)

(七月) 廿四日

早朝より木津え帰り候。地藏祭りにて大いそかしく候。此日、雨中。木津にて一宿。木津、**躍大はつみ**也。此日、昼時前、元之助帰り候。此夜、元之助、**腹疝**にて**大きハキ**也。早速相やみ候也。

*大はつみ(大弾み) *腹疝(腹症) *大きハキ(大騒ぎ)

(七月) 廿五日

此日昼後より母さまと同道にて天王寺え行道にて夕立雷鳴にて、一心寺にて雨宿りする。暫して雨止。夫より御太子様え参る。火事の跡、真に恐れ多き御事也。此日夕方より中之島え帰る。元之助事、昼後より中之島え帰る。此夕、京師姉小路さまより文来。曾川、楚山えの火事見舞の文也。私事、此日、楚山先生え火事見舞に行。此夜、三更二臥。

(七月) 廿六日

此日、戸袋認ル。此夕、米女来、金壺朱かしてくれ候ハ、是て縁切しやと申て、一生私宅えは参り不申様くれくも申居候。是にて三百文遣。此夜、四更臥。
*かして(貸して)

(七月) 廿七日

此日、戸袋認上ル。此日、梶木町より呼に來。田淵氏よりの認物にて相談に行、暫して帰り候。一更二臥。此日、京姉さまより衣物、帯、**かんさし**三本来り候。
*かんさし(簪)

(七月) 廿八日

此朝、後藤え行、学文して帰り、昼後、山田後室來。衣物裾模様、相談に來られ候。夫より裾模様下画図付ル。夜一更二臥。

(七月) 廿九日

此朝、後藤え行、稽古して帰り、昼後より、お雪さまと同道にて天王寺光聖寺え、京葉室さまのお姫の事頼みに行、又円通山えも頼みに参る。夫より楚山先生え行。楚山さま留主中にて、早速帰り候。七ツ時前に帰り候。夜三更二臥。

(七月) 晦日

朝、後藤え行、稽古して帰り、**風呂先屏風**認にかゝる。夜三更二臥。

*風呂先屏風(風炉先屏風)

(八月)

八月朔日

早朝より雨中。此日、**風呂先屏風**認ル。辻御後室さま、御礼ニ御こし遊し候。暫御咄し有て、帰られ候。此日、七ツ時より雨止。井上さまえ御礼ニ参り、御酒少々呼れ、帰り、又辻さまえ寄、御膳呼れ候て帰り候。此日、姉小路さまえ文出す。葉室さまの用事也。此夜、三更迄読書。

*風呂先屏風(風呂先屏風)

(八月) 二日

後藤え行、帰り、此日、雨中。八ツ時、晴。夫より木津え帰り候。此日、認物にて一宿する。此夜、八ツ時より大宝寺町辺、上町、大火。

(八月) 三日

火、此日昼後、止。朝、木津より帰り候。此日、扇屋政治郎入門有。**風呂先**認ル。七ツ時、京師姉小路様より、御仏間出来成、仏前の絹蓮の認物、御用参り候。夜二更二臥。

*風呂先(風呂先)

(八月) 四日

朝七ツ時、エタ村、火。此日、蓮の下画認、京師え出ス。此朝、鴻庄の摺り物下絵認ル。又**風呂先**二かゝる。夜一更臥。

*風呂先(風呂先)

(八月) 五日

此日、**風呂先**認ル。夜二更二臥。

*風呂先(風呂先)

(八月) 六日

此朝、後藤え行、学文して帰り、八ツ時より楚山先生え行、暫咄して帰り、木津え行候処、**もはや**日暮にて此夜一宿する。難波竜泉寺御法座有。母さまと同道にて参詣する。

此日、蓮草稿認ル。

*もはや(最早) *竜泉寺(流宣寺)

(八月) 七日

朝、木津より帰り、**風呂先**認上ル。此日、梶木町より画の事二付、呼に來、七ツ時前より

行、暫して帰り候。夜、読書、認物、七ツ時迄。

*風呂先（風炉先）

（八月） 八日

此朝、京姉小路様より下絵返事参り、早々絹地え認にかゝる。此日七ツ時前、木津より呼に來、早々参り候処、此夜、嫁入荷物行候ゆへ、只今雛さま出來成、雛の認、杉戸認ル。此時、広岡隠居居られ候。夫より細矢宗祝子手前にて御茶呼れる。此時、客、大仙子、広岡、同米女、森はる子、細矢後室、堀宗三、私也。夫より御酒**大さハき**。二更二仲人甚助子帰られ候。私、夫より帰宅。認物、五更迄。此日、京え包物出す。

*大さハき（大騒ぎ）

（八月） 九日

此日、蓮認ル。日暮より木津へ行。此夜、蓮女嫁入にて暫居り、嫁入済て帰り候。夜五更迄夜ナへ。

（八月） 十日

此日、蓮認ル、夜五更迄。

（八月） 十一日

此日昼飯後、豊島お雪さまと同道、三人連にて天王寺え参、雲水へ行、暫遊ふ。雲水より出て、豊島さま急病にて**難義**する。夫より寿法寺へ行、暫居り候間、しつくりをさまり、夫よりお太子さまえ参詣して帰り候。暫して一更也。夜ナへ、五更迄。此日、元之助も天王寺え参詣する。

*難義（難儀）

（八月） 十二日

蓮、認上ル。欄間にかゝる。此夜、三更二臥。

（八月） 十三日

蓮、今度**上ぬり**する。此日、京師え、蓮、脚便ニ出す。又欄間にかゝる。夜、二更二臥。此日、四条様、園様、京師え御帰りあらせられ候。此日、皆原先生、小生連て御出被成、暫居られ候て帰られ候。

*上ぬり（上塗り）

（八月） 十四日

此日、欄間認上ル。此日八ツ時、治郎右衛門おり江女葬式にて、元之助送る。木津にて一

宿する。夜五更迄作図する。此夜、雨中、無月。

(八月) 十五日

此日朝、梶木町え行、下絵相談して暫して帰り候。後井上氏え行、又暫咄して帰る。此日、曇天、無月。夕方、鉄ひんにて薄茶出す。隣家兩人来られ候て、一更迄遊ハれ候。

*鉄ひん(鉄瓶)

(八月) 十六日

此日朝より井上氏と文楽行にて、私相伴にて行、終日。自来也物語、次、姫小松、切、白木屋。一更前二帰る。雨中也。此日、京姉小路さまより殿様の御音物、私え白羽二重小袖、元之助御紋付帷子被下候。

(八月) 十七日

此日、八ツ時より木津え帰り、夕方より難波御寺え参り、御法坐に逢、帰り、此時唯専寺え行、暫遊ぶ、一更也。木津にて一宿。

(八月) 十八日

此日、木津にて滞留。夕方、中之島え帰る。夜三更二臥。

(八月) 十九日

此日、地袋草稿認ル。夜五更迄作図する。此夜、三度早打相通り候。

(八月) 廿日

木地盆認上ル。此日説、一時日十八日、越前春嶽御所え大砲打込候由にて大変由、世間料是にて、私、元之助、二人連にて京師えかけ付候つもりにて、身こしらへ致しかけ候へとも、隣家兩人さまとも、ひとく留られ、京師通行道ことく往來留にて人一人も通さぬ由仰せられ、又々是にてさしひかへまいらせ候。夜三更二臥。

*一時(一昨) *大砲(大砲) *こしらへ(拵へ) *ことく(悉く) *さしひかへ(差し控へ)

(八月) 廿一日

此日、出山釈迦認上ル。此日、七ツ時後より木津え帰り一宿する。

(八月) 廿二日

朝、木津より帰り、此日、コテくして終日くらしまいらせ候。此昼四ツ時、京師より文、十八日暁の大変申来、真に涙落而如雨。何とも角ともいふにいへぬ事也。終日、此事斗思

ひ、只たためいき計也。夜三更二臥。
*たためいき(溜息)

(八月) 廿三日
此日、終日遊ぶ。

(八月) 廿四日
画の草稿認ル。夜二更二臥。

(八月) 廿五日
此日、上田さま芝居行にて誘れ、此日昼時、中条右京様来られ、是より長州行よし申居られ候。此八ツ時より芝居え行、半時頃に帰る。
*半時頃(飯時頃)

(八月) 廿六日
此日、木津より人来、私を呼に來候ゆへ、子達教して、早々木津え帰り候。母さまも此料世間いろくくと致し居り候まゝ、あんし居られ候。此夕方より帰り候。
*あんし(案じ)

(八月) 廿七日
此日、美人認にかゝる。此日、京師寺町え文出す。此日九ツ時、尼大せい甲冑にて大旗立て尼の屋敷え來、真にイクサノ如也。何やら世間の説にてハ大和え流人せめに行れ候よし也。
*イクサ(軍) *流人(浪人) *せめ(攻め)

(八月) 廿八日
早朝、尼ヶ崎出立、見物行。此日、美人認。此日、元之助、木津え帰り一宿する。夜三更二臥。

(八月) 廿九日
朝、美人認上ル。夫より蓬萊山にかゝる。此日、人のうはさにハ大和高取にて流士せめ、打取生取六十人、首七、八ツと申説也。
*うはさ(噂) *流士(浪士) *せめ(攻め)

(八月) 晦日
此日、蓬萊山認上ル。夫より七ツ時、木津え帰り一宿する。

(九月)

九月朔日

朝、木津より帰り候。終張物する。

*終(終日)

(九月) 二日

朝六ツ時、堂島後藤先生の裏手、出火。此日、私少々腹いたみにて遊ぶ。

(九月) 三日

此日、終日美人認ル。此日、京師姉印さまえ文出す。

(九月) 四日

此日、朝より美人認上ル。昼後八ツ時、元之助、木津より帰り、母さま御病気のよし申来、早々木津え帰る。母さま御病氣追々よろしく候て、安心致し候。此夜、木津にて一宿する。

(九月) 五日

昼時より十助連て帰り、此日、衣類京師え出す。此朝、京師より合利着する。父さまよりの文、やはり事発ル故、何もく用意可致様申参り候。此夜、四更二臥。

*合利(行李)

(九月) 六日

此日、終日コテくしてくらし、夜三更二臥。子達、此日限り。

(九月) 七日

此日、昼後より天王寺楚山先生え御礼二行、暫咄して木津え帰り、日暮二相成候ゆへ一宿する。昨六日、長野吉井より人来、五日鶴城急死致し候由申来り候。

(九月) 八日

早朝より帰り、内掃事する。一更二臥。

*掃事(掃除)

(九月) 九日

此日、昼後より辻さまえ御礼に行、暫咄して、井上さまえ行、日暮迄遊。又辻さまえ寄、

夕飯呼れ候て帰り候。此夜、四更後迄夜ナへ。此日七ツ時、酒井雅守さま着致され候て、夜八ツ時ニ、此朝七ツニ御立の急触廻り候。

*酒井雅守(酒井雅楽頭)

(九月) 十日

此日、終日コテくしてくらし候。夜二更ニ臥。此朝、梶木津へ行候処、長野より人来、何分父さまニ来てくれ様頼に参り候。

(九月) 十一日

此日、竹内おきた女、六角たけ女、二人入門いたし候。此日、八ツ時より木津え帰り、又一宿する。

(九月) 十二日

朝七ツ時、北新地出火、四ツ時止。大焼也。終日火事にて大騒動。一寸地袋認ニかゝる。此昼時、十一日出の文、京師より着致し候。元之助、風早さまえ御頼申上、武術稽古致させ候故、元之助上京致す様申来り候。竹の内さまの親類お久さま、御奉公に上る様申来り候。此日、京師え返事出ス。

(九月) 十三日

此日、地袋認ル。此夜、舟にて元之助上京致すはつの処、竹内こしらへにて、明日ニ相成候。此夜、三更ニ臥。

*はつ(筈) *こしらへ(拵)

(九月) 十四日

此日、加州軍兵、京師より着して、左山へ行れ候。六百人数也。此夜、舟にて、元之助、お久さま、下男、べ三人、上京致され候。夜四更迄夜ナへ。

*左山(狭山)

(九月) 十五日

此日、井上氏より呼に來、八ツ時より行、日暮迄ニ帰る。此日、地袋認。夜三更ニ臥。

(九月) 十六日

此日、京師より地袋紙來。元之助送し人、京師より昨夜四ツ時帰る。右紙、持帰る。此日、終日地袋認ル。夜五更ニ臥。

(九月) 十七日

此日、八ツ上りして木津え帰り候。木津、神事。唯専寺行候処、**按察使**様居られ、良暫咄して帰り、氏神さまえ参詣する。其道にて母さま急病、内え帰り、暫時致し候へは、はや治り候。此夜、一宿する。

*按察使（按察使）

（九月） 十八日

早朝より帰り、後藤さまえ行、教道して帰り、地袋認ル。夜五更二臥。此夜、竹内下男、姉小路さまえお久女迎へに行。其者ニ文告ル。

（九月） 十九日

此日、終日地袋認ル。夜四更二臥。

（九月） 廿日

此朝、竹内下男、お久女連れて帰り候。父さまより文来。此日、木津母さまより文来。私、八ツ後より木津え行、一宿する。

（九月） 廿一日

此朝、木津より帰り、終日コテ／＼して暮し候。此夕、三更迄夜ナへ。此夜より眼いたみ候。

（九月） 廿二日

此日、地袋認居り候へとも、眼いたみ候ゆへ、上田おふきさま、おかめさま、同道にて細矢え行、茶稽古する。七ツ時二帰り、夜、早寐する。

（九月） 廿三日

此日、眼弥甚しく**はれ**、いたみひとく候て、終日臥。
*はれ（腫れ）

（九月） 廿四日

此日、眼猶々甚しく候て、此八ツ後時より三井え行、見てもらい候。夫より木津え帰り候。此節、唯専寺にて幸常通寺さまの御法座御坐候ゆへ、夜御坐参詣する。木津にて一宿。此日、京え蒲団、着物類出す。

（九月） 廿五日

此日、子達休日にて木津にて滞留、夜昼御法座聴聞する。此日、京師より廿四日出店走りにて文来。竹内お久女、上京相断くれ様申来候。私留主中にて、隣家開封仕られ、早々竹

内さまえ御断に行れ候。

(九月) 廿六日

此日、昼夜御法座聴聞する。真に眼病の御影にて、子達三日休日に致し候。是も偏に阿弥陀さまの御引合と存して、うれしく存まいらせ候。此夜、唯専寺にて一宿する。此日、隣家主人さま播州へ行れ候よし也。

*御影(御蔭)

(九月) 廿七日

此日、昼夜御法談に逢、真に阿弥陀さまの御恩の程、身にしみ渡り候。

(九月) 廿八日

早朝六ツ時より中之島え帰り候。此日、御法座御満座にて、此日、参詣致し度と**そんし**候へとも、何分隣お雪さまお一人にて御淋しく暮らされ候まゝ、中々私木津え帰る事出来かたく御坐候へとも、いかにしても残念に候まゝ、母病氣にてあしくと申て人來候とい**つわつて**、八ツ上りして、早々木津え帰り、参詣いたし候処、真に都合能、昼御座三座丸逢二候て、夜御座も参詣する。木津にて一宿。
*そんし(存じ) *いつわつて(偽つて)

(九月) 廿九日

朝六ツ時より中之島え帰り候。此日、眼病追々によろしく候。此日、井上さまより北野別荘え菊見にて呼に來、昼時より行、終日遊ぶ。**半時頃**に帰り候。一更迄隣家に遊ぶ。此夜三更ニ父さま京師より帰られ候、竹内喜兵衛伴して。夫より喜兵衛、早々竹内さまえ帰り候。

*半時頃(飯時頃)

(十月)

十月朔日

此日、終日ふらくと暮し候。

(此朝より、父さま、早朝、竹内内方御礼に御出被成候。夫より父さま木津え帰られ候て、木津にて一宿遊し候。)

(十月) 二日

此日、八ツ後ニ木津より帰られ候て、辻さまえ行れ、辻さま御馳走ニ而、木津さまえ行れ

候。此時、智明院さま御出にて、日暮ニ帰られ候。父さま、夜船にて上京致され候。

(十月) 三日

此日、八ツ後より井上さまえ行、画の稽古して日暮ニ帰り候。此夜、隣家にて一宿。

(十月) 四日

此日、八ツ後より泉吉え行、帰り、井上さまえ行、暫して日暮ニ帰り候。夜ニ更迄手本認ル。

(十月) 五日

此日、地袋認上ル。此朝、細矢え前礼ニ行候。此夜、風邪の**気み**にて一更ニ臥。

***気み**(気味)

(十月) 六日

此日、細矢、時はつれの茶事にて、上客(上田ふき 花蹊 上田かめ 豊島ゆき)、

床掛物、無事は貴人(紫野大竜叟書)、香合(白粉解 菊画 宗左書附)、

炭斗(一閑重大用ユ)、方六(弥助 焼貫キ)、釜(あられ 淨拙)、

水指(真ぬり手桶)、茶入(備前 銘弁慶 覚々斎書附)、茶碗(新コマガイケ)、

茶杓(少庵作 宗旦 **宗左書附**)、袋(焼ケ切)、建水(曲)、花(椿大神楽 ハシハミ)、

花入(銘ひな鶴 了々斎)、菓子(腰高饅頭 伊織製)、干菓(唐松せん餅)、

薄茶器(ズン切 菊桐蒔絵)、其外同断。料理、

向(かふらあん懸 うなき五切)、汁(かしら芋□ニ切 半さし味噌 割銀南からし)、煮物(丸焼豆腐 も魚一切 長ひぢき へぎゆ)、

吸物(松露)、八寸(あひかす漬 ゆり)、漬物(なす)、以上。

日暮に帰り候。夫より上田さまえ送り行候て、暫咄し致し候て帰り候。三更迄読書。

*宗左書附(宗左書附) *□ニ切(かくニ切)

(十月) 七日

此日、井上さまより呼に來、八ツ時より行、画の手本認ル。七ツ時より細矢え行、薄茶呼れ候て帰候。此夜、二更ニ臥。此日、京より包來。

(十月) 八日

此日、八ツ上りして、木津え帰り候て、一宿する。

(十月) 九日

此朝、木津より帰り候。地袋作函する。此夜、三更迄手本認ル。此日、京師便する。

(十月) 十日

此日、子達休して、北畑口切茶事初会、正午呼れる。

客(上田三郎左衛門 ふき 花蹊 かめ ゆき)、

床(三齋公文)、

釜(与治郎作 ジン代)、炭斗(さかひ籠)、

香合(赤絵大丸)、花入(一応宗守作 銘高雄 [絵] 椿白 寒きく)、

水指〔絵〕伊賀)、茶入(茶桶 文叔書付 袋織留)、

茶碗(バンシヤウ番匠 呉器〔絵〕)、茶杓(銘真砂 守専当宗匠作)、

御茶(イノむかし)。会席、汁(かふら二切輪切 むしり葉 鷹ノ爪)、

向(青楽ふた物 玉子とし あん懸 上ニわさひ) 煮物(鯛大切一 なめ茸 堀川牛房五ツ)、

吸物(長ろき さき梅干)、八寸(かふら骨 百合)、

菓子(白あん腰高饅頭)、以上。

此時、中井、細合来られ候て、私、ふき、かめ、ゆき、薄茶不呼れと帰り候。此日、野辺歩して、**金米羅さま**え参詣して帰り候。日暮也。夜四更二臥。

*金米羅さま(金毘羅さま)

(十月) 十一日

此日、川しまより頼みの扇面認ル。夜五更迄扇面認、袋戸棚掃事する。

*川しま(川島) *掃事(掃除)

(十月) 十二日

此日、扇面認ル。日暮より木津え帰り、唯専寺報恩講にて、此夜通夜する。

(十月) 十三日

明六ツ、お朝時御勤ニ逢て帰り候。此日、扇面認ル。

(十月) 十四日

此日、出物又追々にいたみ候ゆへ、昼時、森さまえ行、見てもらい候。此日、辻さまより呼に來、参り、出物にあしくゆへ**せんさい**不呼れ、御飯呼れ候て、井上さまえ行、稽古する。七ツ後時に帰り候。

*せんさい(善哉)

(十月) 十五日

此日、姉小路様の地袋ニかゝる。夜三更二臥。

(十月) 十六日

此日、地袋認ル。此夕、豊島さまにて御茶呼れ、御飯共馳走に逢。夜三更迄読書。

(十月) 十七日

此日、開炉して釜懸、辻新三郎子、お雪さま、木村来られ候。夜、作図。二更二臥。

(十月) 十八日

此日、地袋認上ル。津田安子来り、暫咄して帰られ候。此日、天満卯野来り候。咄しに、又但馬辺銀山ニ流人たてこもり居られ候て、大将沢水主守さま、改名姉小路五郎丸として御座るよし也。此夜、三更迄読書。

*流人(浪人) *沢水主守さま(沢水正さま)

(十月) 十九日

此日八ツ時後、梶木町より呼に來、田淵さまの認物相談する。此時、田淵さま、高岡さま居られ、小袋棚一手前稽古する。夫より木津え帰り候。暮半時也。此夜、木津にて一宿。

*半時(飯時)

(十月) 廿日

朝、天王寺楚山先生え傘返しに行、暫して帰り候。中之島え八ツ時前に帰る。暫して、お雪さまと同道にて三井え行、少々調物して帰り候。此日、京師より文來。此夜、二更二臥。

(十月) 廿一日

此日、楚山先生よりの絵図認ル、二枚。此日、京師え竹内お久女の箇出。此夜、三更迄読書。

*箇(籠)

(十月) 廿二日

此日、地袋秋冬認ル。此日、京師え着物類出す。此夜、三更二臥。

(十月) 廿三日

此日、地袋認ル。夜三更迄読書、手本認ル。

(十月) 廿四日

此日、地袋認上ル。夕方より木津え帰り、木津にて一宿。

(十月) 廿五日

此日、終日本津にて仕立物、手本手伝する。夕方より帰る。夜四更迄読書、手本認ル。

(十月) 廿六日

此日、地袋残り認上ル。此日、京師え地袋出す。夕、上田さまと五霊さまえ参詣する。二更二臥。

*五霊さま(御霊さま)

(十月) 廿七日

此日朝、梶木町え行、辻さまえ寄、暫して帰り候。此日、釜懸。辻新三郎さま御出にて、又隣兩人、竹内さま、御出にて、薄茶出す。此時、京師より文来。来章先生の画と望玉川画と二枚、父さまより給り候。此夕、読書四更迄。

(十月) 廿八日

此日、井上さま絹地菊認二かゝる。此夜、三更迄読書。

(十月) 廿九日

此朝、梶木町え行、田淵えの用有候て、一手前する処、田淵さま御出にて画の相談する。又炭手前する。此日、終日雨中。夫より帰り、菊認。夜四更迄読書する。

(十月) 晦日

此日、終日菊認。諸払済て、夜二更迄読書。

(十一月)

十一月朔日

朝より後藤さまえ御札に行、暫咄して帰り、夫より木津え参り懸、細矢貞順さまに途中二出逢、同道して細矢さまえ行、一服呼れ候て、木津え帰り候。此道、三井え薬料持参する。木津にて暫居、夫より楚山先生え行、良暫遊ぶ。夫より又木津え帰り、母さまと同道にて、外二少々買物有ゆへ、瓦屋橋え見舞二寄候て、此夜一宿する様申され、母さま帰られ候へとも、私一宿する。此夜、女太夫浄瑠璃え行、一更二帰り、臥。

(十一月) 二日

早朝、中之島え帰り候。此日、釜日にて、掃事して釜懸候処、辻さまお断にて、私、七ツ前より辻さまえ行、風呂もらい、夕飯して帰り候。夜三更迄読書。

*掃事(掃除)

(十一月) 三日

此日、終日菊認ル。夜三更迄読書。

(十一月) 四日

此日、終日菊認。夜三更迄読書。

(十一月) 五日

此日、菊認。八ツ上り。済て、瓦屋橋吉井え行、預ヶ置候風呂敷包取に行、日暮より帰り候。豊島さまにて二更迄珍談。此時、三木弥平様居られ候。三更臥。

(十一月) 六日

此日、菊認。此夕、上田おふきさま添れ候て、**五霊さま**え詣して帰り、又豊島さまにて一更迄遊ぶ。帰り、三更迄手本認、読書。此日、京父さまより、店走り書状三日出、八ツ時に着す。飛脚御堂筋浪花や元之助也。此文に、地袋見事に出来候て蓮観院さま御感心遊し候て、又々和宮様えの御進物に相成候画、御頼に参られ候。

*五霊さま(御霊さま)

(十一月) 七日

此日、菊認上ル。此夜、四更迄読書。

(十一月) 八日

此日、**フイゴ**祭。子達半日して、昼後より木津え帰り、暫手本認候て、日暮より帰り候。夜四更迄夜ナへ。

*フイゴ(鞆)

(十一月) 九日

此日、田淵氏の画表具認上ル。此日、宮原先生、豹さま連て御出遊し、暫御咄し有て御帰り遊し候。明日、御帰京のよし也。此日、京師姉小路様え文出す。千家、宗祝子えも文出す。夜四更迄仕事する。

(十一月) 十日

此日、八ツ(上り)して、上田さまえ見舞に行、暫して帰り、井上さまえ行、画手本認。夫より帰り懸、辻さまえ寄、早速帰り、夫より木津え用有て帰り候。**半時**也。此夜、手本認、一宿する。

*半時(飯時)

(十一月) 十一日

朝、木津より帰り候。此日、上田さまよりの二幅対下画工風して、終日コテ／＼と暮らし候。此夕、お雪さまと同道にて竹内さまへ行。竹内さま、新香の物上ると仰せられ候ゆへ、樽持参する。薄茶呼れ、暫咄して帰り候。夜四更迄仕事する。

*工風(工夫)

(十一月) 十二日

此日、上田さま連落松竹二枚認上ル。此夜、又竹内さまえお雪さまと同道にて香物かつきに参り候て、薄茶呼れ、暫して帰り候。此夜、上田おかめさま疱瘡ひとくあしく候て、夫ニ付、用事有候て、三度上田さまへ行。夜ナへ、大根きさむ。三更二臥。

*かつき(担ぎ)

(十一月) 十三日

此日、扇子二本認ル。京姉小路さまえ文、白紬一反出す。夜、大根きさみ、又読書。二更二臥。

(十一月) 十四日

此日、八ツ上りして光円寺へ行候処、主寺留主中にて、早々帰り、梶木津へ行、歓順手前にて一服呼れ、此時、熊野人居られ候。堺きん女、千枝女、私、皆々一手前して、夜、花月する。一更二帰り候。此日、堺吟女来られ、堺吉井親類来て家の終末付候よし也。其事吟女申来り候。此日、京堺屋扇子出す。又父さまより文来。三更二臥。

*主寺(住持) *終末(始末)

(十一月) 十五日

此日、半切若松認。此日、大風、極ひへにて、少々所勞にて夜ナヘナシ。此日、姉小路さまより十四日出、店走りにて和宮さまえの進せられ物認物、来。

*極ひへ(極冷へ)

(十一月) 十六日

此日昼時、父さま京師より帰られ候。大風にて夜船下りかね候。夫より昼飯して、木津え帰られ候。此日、認物立雛一幅。此時、木津より使来候ゆへ、夕暮より、私、木津え帰る。一宿。

(十一月) 十七日

此日、報恩講勤、又一宿。

(十一月) 十八日

朝、中之島え帰り候。此日、京師よりの認物、先一枚にかゝる。夜四更二臥。作図、又ほ解物。

*ほ解物(解き物)

(十一月) 十九日

此日、一枚認上、又一枚にかゝる。此日八ツ後時、父さま木津より帰られ候。此夜、船にて帰京のはつ、又用事有候て滞留。夜二更迄手本認ル。

*はつ(筈)

(十一月) 廿日

此日、菊彩色する。父さま、楚山先生え行れ、七ツ時前に帰られ候。此夕、御きけんよく御乗船遊し候。夜三更迄作図。

*きけん(機嫌)

(十一月) 廿一日 甲子

此日、菊認上ル。此日、夕方より木津え帰り候。此夜一更、鼓うち候処、火事。新町橋東詰、火出し。先々安心して臥候処、程なく火役も帰り、火も鎮まり候処、夜七ツ時、(翌日へ続く)

*鼓うち(鼓打ち)

(十一月) 廿二日 乙丑

いまたハン鐘の音聞え、ふしんなから、朝有明の月と友に中之島え帰り候処、難波入口より大煙みへ、段々歩くまゝに、猶更ひとく、火も見へ候て、心齋橋筋大丸の辺にて、会所要助に逢候処、とても中之島え御帰りハ出来不申候由申居り候へとも、又段々行候処、火のそはより耆町手前西え行候。此時、五竜円焼居而、又新町橋え行、焼跡通りて帰り候。真に軍の如也。此日、牡丹にかゝる。火事にて、子達半日休に致し候。益火甚しく、夕方辻さまえ御見舞二行、ひのめえ上り見る処、火のもへ上り候処十一処、実におそろしき次第也。夫より帰り、隣家にて、此夜寐る事出来不申候まゝ、一更迄居而、宅え帰り、作図致し候処、三更ニ漸下火の気色に相成候。火事、先新町橋より、東、玉造、二軒茶屋、東今里在処迄焼、北、本町迄、南、末吉橋迄、焼跡広く候て、見渡し出来不申候。実は大変也。此日、隣家釜懸られ、呼れる。

*ハン鐘(半鐘) *ふしん(不審) *友に(共に) *みへ(見へ) *そは(側)

*ひのめ(火の見) *もへ上り(燃へ上がり)

(十一月) 廿三日 丙寅

此日、牡丹認ル。此日、上田御新造さま、御礼に御出被成候。夜二更二臥。

(十一月) 廿四日 丁卯

此日、牡丹認上ル。玉堂富貴にかゝる。此日、おかめさま、初而遊ひに御出る。病氣ひとくよろしく候。夜一更迄隣家に遊ぶ。二更二臥。

(十一月) 廿五日 戊辰

此日、玉堂富貴認上、五枚目ブリヅにかゝる。夜三更迄作図。

*ブリヅ (振々)

(十一月) 廿六日 己巳

此日、ブリヅ認上ル。六枚目立雛認上ル。此日、京姉小路御殿え文出。此夜、火事羽織竜認ル。四更二臥。此夜、堺出火。

*ブリヅ (振々)

(十一月) 廿七日 庚午

此日、八ツ上りして、木津え帰り一宿する。

(十一月) 廿八日 辛未

朝、中之島え帰り、七枚目桜認上ル。八枚目芙蓉にかゝる。夜四更迄作図。此夕、辻さまえ寒気見舞持参する。

(十一月) 廿九日 壬申

此日、芙蓉認上ル。九枚目シヤウと姥にかゝる。此日、京姉小路さまより画紙、御文庫、鉄瓶来。廿二日又廿四日出遠着。此夜、三更迄作図。

*シヤウ (尉) *遠 (延)

(十二月)

十二月朔日 癸酉

此日、シヤウト姥認上ル。十枚目薬玉にかゝる。此夜一更頃、上町大手辺、小出火。二更迄作図。

*シヤウ (尉)

(十二月) 二日 甲戌

此日、薬玉認ル。今日より、お久万女来。此日、京師より店走り文来。夜一更迄作図する。

(十二月) 三日 乙亥

此日、薬玉認上ル。十一枚目七草にかゝる。此日、二更迄作図。

(十二月) 四日 丙子

此日、七草認上ル。十二枚目クミ袋にかゝる。此夕、私梶木え行、袋棚にて濃茶稽(古)する。夫より三度濃茶手前して、手本認、三更二臥。

*クミ袋(茱萸袋)

(十二月) 五日 丁丑

此日、グミ袋認上ル。十三枚目楓にかゝる。此日、辻後室さま、寒気見舞二御出被成候。此日、三日出にて店走り、七ツ時前に着す、京姉さまより。此夜、三更迄試筆手本認ル。

*クミ袋(茱萸袋)

(十二月) 六日 戊寅

此朝、辻さまえ行、おしへる。昼時に帰る。楓認ル。此日、京姉さまより五日出、店走りにて文来、おひさ女むかひに来る様申来り候。此夜、写し物二更迄。

*おしへる(教へる) *むかひ(迎ひ)

(十二月) 七日 己卯

此日、楓認ル。又雉にかゝる。此夕、竹内男上京する。夜三更迄写し物。

(十二月) 八日 庚辰

此日、十四枚目雉認上ル。又十五枚目朝兒にかゝる。此朝、竹内下男上京する。此夜、一更二臥。

(十二月) 九日 辛巳

此日、朝兒認ル。此日、八ツ上りして、天満卯野え寒気見舞に。日暮に帰る。夫より梶木え行候処、茶之湯客最中にて稽古なしに帰り候処、姉小路様新助、久女送りて来り候。此夜、三更二臥。新助、竹内にて一宿する。

(十二月) 十日 壬午

此日、朝兒認上ル。十六枚目蓬莱山にかゝる。此朝、新助帰京する。此夜、四更二臥。

(十二月) 十一日 癸未

此日、木津え。正午茶之湯呼れる。

客（豊島孫右衛門 迹見花蹊 内藤政元 豊島ゆき）、

待合（煙草盆 火入 手アブリ）、

床（宗旦文 書中ニ 水栗をかむ心地する雪の下駄）、

釜（天猫 肩付あられ）、炭斗（ふくへ）、香合（〔絵〕呉州 蟹模様）、

方六（焼貫）、茶碗（井戸外）、水指（木地曲）、

茶入（一啜齋銘 服鼓□）、袋（銀欄 撫子模様）、茶杓、

建水、花入、花（白玉椿 暖紅梅）、

御茶（初むかし 詰）、菓子（腰高饅頭）。

会席、向（樂長入升形ふた物 鮎昆布巻ニツ 堀川午扇〔房〕三切 ふきの蔓、汁（半さし かふら三切 むしり葉）、

鯉汁椀、

煮物（いとより結一 すくひ玉子 長芋五ツ 長ろき くわん草）、吸物（つくくし三ツ）、

八寸（若山□ おしくわへ）、外二、鱧の糍漬、香の物（なすひ）。

日暮前に帰り候。此日、一興也。夜三更二臥。

（十二月） 十二日 甲申

十七枚目兜にかゝる。此日、八ツ上りして、楚山先生え寒中見舞に行。此行懸、木津え後礼に行、夫より細矢え行、一服呼れる。楚山先生にて日暮候て、木津え帰り一宿する。

（十二月） 十三日 乙酉

朝、木津より帰り、兜認ル。此夜、三更二臥。

（十二月） 十四日 丙戌

此日、兜認ル。此日、京師より便有。京師え寒見舞文出。夜三更二臥。

（十二月） 十五日 丁亥

此日、兜認上ル。十八枚、又十九枚、萩、若竹、認上ル。此日、姉小路様え曲物出ず。宮原え寒見舞出ず。夜三更二臥。

（十二月） 十六日 戊子

此日、廿枚目葉げいとかゝる。此夕、荒木新兵衛来、暫咄して帰り候。夜三更二臥。
*葉げいと（葉鶏頭）

（十二月） 十七日 己丑

此日、はげいと認上ル。廿一枚目寒菊にかゝる。此夜、四更二臥。

*はげいと(葉鶏頭)

(十二月) 十八日 庚寅

此日、寒菊認ル。又杜若にかゝる。此夜、一更二臥。

(十二月) 十九日 辛卯

此日、杜若認ル。七夕**おとり**、袋布にかゝる。此日、辻御後室さま歳暮御越遊し候。此朝、京姉印さまより文来。此夜、井上善六子来、**すり物**頼みに付、認ル。夫より帰られ候。此時、雪一寸斗積ル。夜三更二雨中にて解る。夜三更二臥。此日、唯専寺十助、寒氣見舞ニ来。

*おとり(躍り) *すり物(摺り物)

(十二月) 廿日 壬辰

此早朝、久満女木津え帰らず。此日、横物二枚、扇面壺枚認ル。熊女、八ツ後時、木津より帰り候処、木津、難波え彦根人二千五百人来。夫ニ付て木津宅七十人宿かりに来候まゝ、京師え尋に文出す。此夕、辻さまえ行、餅、風呂二入、帰る。夜三更二臥。

(十二月) 廿一日 癸巳

此日、風霰にて、子達半日限り納筆いたし、昼後より久満女連て木津え帰り候。木津村、彦根にて大騒動。夜、一宿する。

(十二月) 廿二日 甲午

朝、帰り候。此日、人物三枚認ル。此朝、京師より廿一日出、店走りにて文来。又七ツ時、風呂敷包来。此方より風呂敷包出。夜一更二臥、風邪にて。

(十二月) 廿三日 乙未

此日、**跡**三枚認ル。此日、音羽御所より御頼みの線香、沈香、京師え出す。夜二更二臥。
*跡(後)

(十二月) 廿四日 丙申

此日、三枚認ル。昼後より、扇面壺枚、半切横物五枚、短冊壺枚認ル。夫より**川しま**衣類の草稿認ル。夜四更二臥す。

*川しま(川島)

(十二月) 廿五日 丁酉

朝、楚山先生え行、認物相談して帰り、此時八ツ時。夜二更臥。

(十二月) 廿六日 戊戌

此日、朝より裾模様認ル。八ツ時、認上ル。夫より木津え帰る。此帰り懸、隣家釜懸られ、一服吸て帰る。夕方より中之島え帰る。此時、一寸雪降。難波新地節分、到而さひしく候。夫より五霊さまえ詣して帰る。紙継物する。二更二臥。

*五霊さま (御霊さま)

(十二月) 廿七日 己亥

此日、障子張する。此日、隣家釜懸り、呼れる。此日、和宮様認もの、京師え出。

(十二月) 廿八日 庚子

此日、障子張する。終日掃事。

*掃事 (掃除)

(十二月) 廿九日 辛丑

此日、京師より文庫来。此日、私、辻さま、井上さまえ歳暮二行。

(十二月) 晦日 壬寅

此日、八ツ後時迄に弘方濟、夫より木津え久満女連て帰る。夜四ツ時、中之島え帰る。